

に届けていただくようお願いし、着のみ着のまままで上陸したのでした。後で分かったのですが、荷物を預かっていただいた人は何かの組の親分でした。

大阪から船で高松に行こうとしたのですがお金がないのです。大阪から高知まで行く船賃ぐらいいしか持つていなかったのです。それで以前、速記の講習会を開いたときの受講者の中に商家の息子さんがいたのでその人を尋ねて行き、事情を話してお金をいくらか借り、それで船に乗ったのです。ところがその船がまた嵐のため神戸で止まってしまったのです。仕方がないので上陸して岡山から宇野に行き、宇野から船で高松に渡ったのです。高松から高知までそのころはまだ鉄道が今のように通じてなく、川之江とかいうところまで汽車で行き、そこから池田というところでしたか、そこまで自動車で行き、そこから高知に自動車で行くことにしたのでした。ところが池田とかいうところに着いてみると、高知行きの定期便のバスが出てしまった後でした。これでは全くどうにもならないのです。幸い、そこにいた人の中に私のことが高知の新聞に載っていたことを知っていた人がおり、お金は高松に着いてから中村先生にお払いしていただくことで了解を求め、特別に自動車を出してもらったのです。鉄道がなぜ高知までついていなかったかといえば、まことに無理もない難所でした。山また山の大変なところでした。道も狭くて舗装もしていない小さい道で、一步あやまれば谷底を流れている川に落ちるところが幾か所もあり、ひやひやすることが何度あったか分からないのです。そういうところを命がけて高知まで行ったのです。